

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：特定非営利活動法人循環型社会創造ネットワーク
活動地域：八戸地域

活動におけるテーマ・キャッチコピー

脱炭素・循環経済・自然共生の八戸モデル形成

活動団体紹介



当NPO法人は、循環型社会の創造を目的に、再生可能エネルギーの普及を図り、地域社会の発展に貢献すること、これに賛同する事業者等を会員として、2003年8月に発足をいたしました。

現在は、国際的に目指すべき社会のあるべき姿として示されている持続可能な開発目標（SDGs）に基づいた活動を目的として、事業展開を行っております。

このSDGsの17のゴールの中で、ゴール7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）の分野を得意とし、エネルギーの有効利用、省エネ診断及びエネルギー管理マネジメントの普及等を行っております。

また、ゴール15（陸の豊かさも守ろう）の活動として、長年環境教育及び環境イベントにたずさわっております。

近年は、地域の活性化に貢献するため、ゴール12（つくる責任、つかう責任）及び、ゴール14（海の豊かさを守ろう）に関わる事業にも挑戦をしています。

これからも、当NPO法人の活動に注目していただきたく存じます。



特定非営利活動法人
循環型社会創造ネットワーク（CROSS）
代表 加藤 正貴

団体概要

団体名	特定非営利活動法人 循環型社会創造ネットワーク（NPO法人CROSS）	
設立	2003年8月4日	
代表者	理事長 加藤正貴	
所在地	〒031-0081 青森県八戸市柏崎二丁目7-14	
会員・職員	会員 17名	職員 3名
理事・役員	相談役 類家 伸一	アールテック株式会社（代表取締役）
	理事長 加藤 正貴	元大洋金属株式会社
	副理事長 大石 治男	元環境省
	専務理事 根城 秀峰	有限会社根城損害保険事務所（代表取締役社長）
	理事 伊藤 園子	八戸市議会議員
	理事 小泉 國雄	大泉運輸株式会社（代表取締役）
	理事 金田一 彦弥	株式会社河原木電業（営業課長）
	理事 笹垣 陽子	株式会社清掃センター（代表取締役社長）
	理事 塚原 陸市	南部電機株式会社（代表取締役社長）
	理事 豊田 美好	八戸市議会議員
	理事 平野 薫	八戸液化ガス株式会社（代表取締役社長）
	理事 吉田 誠夫	株式会社吉田産業（代表取締役社長）
	理事 渡辺 孝	株式会社ワタナベ設計（代表取締役社長）
	監事 音喜多 博	
	監事 北山 輝夫	三八城税理士法人

事業内容

【目的】

この法人は、市民、行政、高等教育機関及び地域企業等と連携し、温室効果ガス削減のためのエネルギー消費効率の改善、低炭素エネルギー源の導入及び環境・エネルギー教育等への支援を行い、これらを通して地域の自主的かつ継続的な低炭素化活動を推進することで、持続的な発展可能な循環型社会の形成に寄与するとともに、環境問題とエネルギー政策に貢献することを目的とする。

【活動】

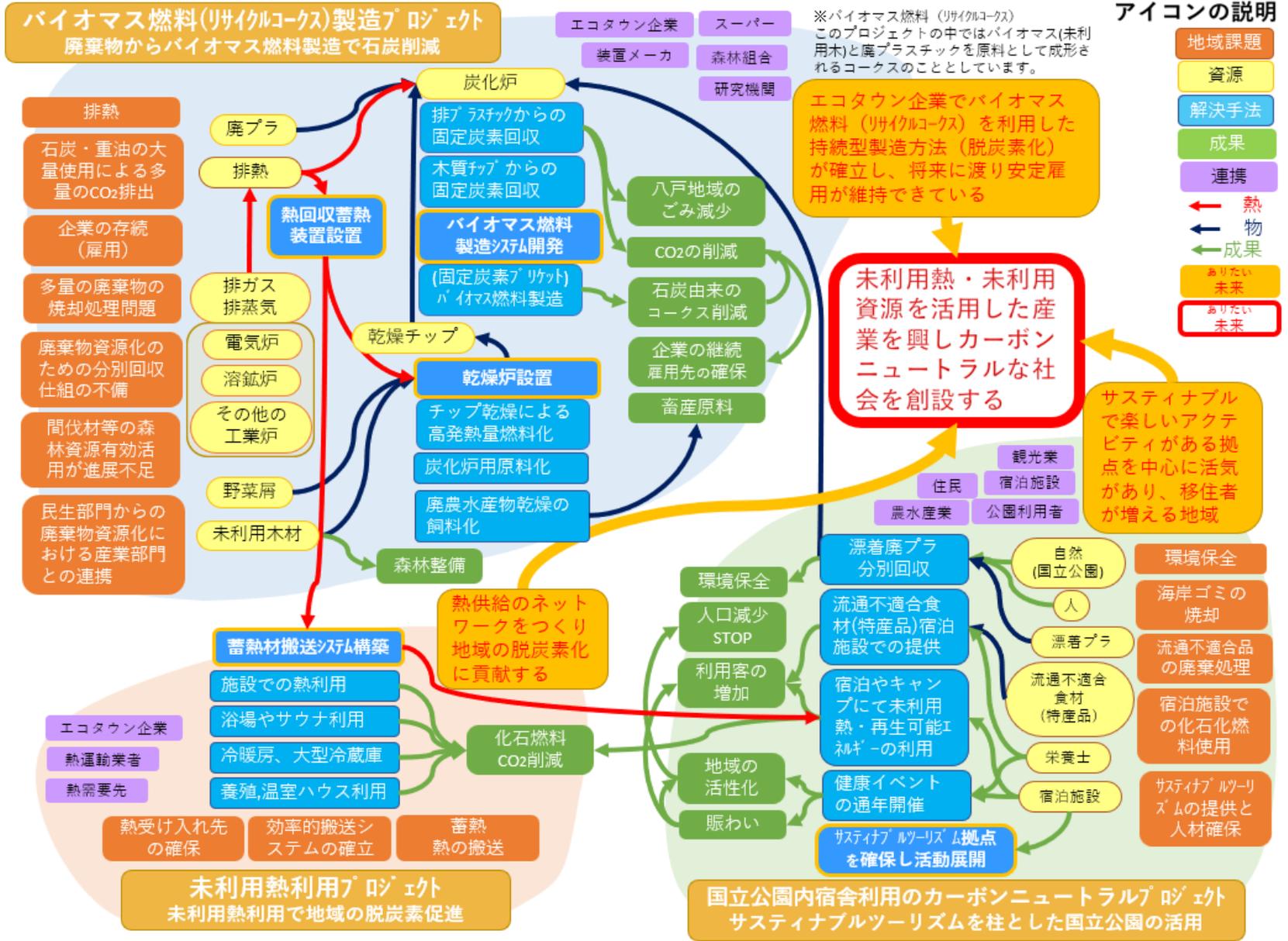
1. 社会教育の推進を図る活動
2. 環境の保全を図る活動
3. 科学技術の振興を図る活動
4. 経済活動の活性化を図る活動

【実施内容】

- ・省エネルギー及びエネルギーの有効活用に関するコンサルティング
- ・循環型社会形成のための普及活動・啓発活動の企画・実施



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

- ・ 関係者ヒアリングの実施
事業のタネの創出
新たなステークホルダーの必要
メーカー・関係する地元の企業



- ・ 意見出しのためのワークショップの開催
地域コンセプトの考え方を学ぶ



- ・ 地域プラットフォームをつくるための準備会
地域コンセプトの取りまとめ



取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

地域循環共生圏の準備会を進めていく中で事業のタネが形成された。

地域資源である未利用熱と他の地域資源を活用して、何を行うのか？

バイオマス燃料（リサイクルクス）製造プロジェクト

未利用熱 × 木質バイオマス = バイオマス燃料

石炭由来コークス − バイオマス燃料（リサイクルクス） = 脱炭素

※バイオマス燃料（リサイクルクス）：このプロジェクトの中で石炭コークスの代替品としてバイオマス（未利用木）と廃プラスチックを原料として成形されるコークスのこととします。

未利用熱利用プロジェクト

化石燃料使用量 × 未利用熱（蓄熱輸送） = 化石燃料・CO₂の削減

国立公園内宿舎利用のカーボンニュートラルプロジェクト

三陸復興国立公園 × 自然共生 × 脱炭素 × 循環経済
= 新しい地域経済の進展

取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

バイオマス燃料（リサイクルークス）製造プロジェクト

- ・どの研究機関と共同で開発するのか
- ・あおもりエコタウン事業で連携していた工場と他企業との連携
- ・バイオマス燃料大量導入のために、林業・民生部門との連携・協働
- ・廃プラスチック・未利用木材の収集システムの構築（協力してくれる大型スーパーや回収業者を確保）
- ・コストの問題

未利用熱利用プロジェクト

- ・熱を効率よく、低コストで提供するシステム
- ・コストに見合う熱需要先の開拓

国立公園内宿舎利用のカーボンニュートラルプロジェクト

- ・国立公園の管理と地域で暮らす人々との意見交換の場
- ・当地域におけるサステナブルツーリズムとは何かを考える場
- ・協働することで得られる効果への理解

今後の展望

- 地域の脱炭素・循環経済・自然共生を八戸で達成するために、バイオマス燃料（リサイクルクス）・未利用熱活用・サステイナブルツーリズムの事業化を各ステークホルダーと協議する
- 地域プラットフォームの構築に向けた取組
⇒更なるステークホルダーの巻き込み
- 事業化に向けた取組
⇒資源ポテンシャル調査・先進地視察